

新説！スーパーカー入門

日本スーパーカー協会 代表理事 須山 泰宏様

■日本スーパーカー協会とは

- ・TOKYO SUPERCAR DAY を開催：東京モーターショーやジャパンモビリティショーに出展
- ・私のスーパーカー活動の履歴
ニフティ社不協(社会的不適合車協同組合)の都筑会
→フレツター(フレンドリーツーリング)
→SCJ/全日本スーパーカー連絡会
→日本スーパーカー協会
- ・書籍出版：スーパーカーガレージ
(サンライズパブリッシング)



2008年にスーパーカーオーナーズクラブ・SCJを設立、現在1900人のメンバーで活動中。またオーナー様のご協力を頂き、多くの皆様に喜んでもらいクルマ文化の深長に貢献したく、2015年に全日本スーパーカー連絡会を設立。2017年に法人化し、一般社団法人日本スーパーカー協会として活動中。

■スーパーカーとは

スーパーカーの定義

メーカーはスーパーカーとして販売せずスポーツカーとして販売。市場、マーケティングの金額、時代や国によっても違い非常に難しいです。分かりやすく言うなら外車で、高級で、2ドアで、スピードが出る車がスーパーカーじゃないかと思えます。

自動車生産国

1位：中国、2位：アメリカ、3位：日本、4位：インド、5位：韓国

スーパーカーブランド

イタリア：フェラーリ、ランボルギーニ
イギリス：アストンマーティン、マクラーレン
ドイツ：ポルシェ
アメリカ：マッスルカーが多い
日本：量産メーカーがたまにスーパースポーツカーを発表

■これからのスーパーカーとは

自動車業界の方向性

2022年にEU、2035年に欧州域内で二酸化炭素を排出する乗用車と小型商用車の販売を禁止することで合意→その後、合成燃料(e-fuel)二酸化炭素(CO2)と水素(H2)を使う燃料車は容認、と軌道修正

EVの課題

航続距離/価格/インフラ/充電時間/寒冷地/生産～廃車までの環境負荷

EVの種類

- ①BEV:Battery Electric Vehicle
(バッテリー式)電気自動車
- ②HEV:Hybrid Electric Vehicle
ハイブリッド自動車
- ③PHEV:Plug in Hybrid Electric Vehicle
プラグインハイブリッド自動車
- ④FCEV:Fuel Cell Electric Vehicle
燃料電池自動車

スーパーカー業界

EVを中心とした新興メーカー誕生、新モデルをリリース
リマック(クロアチア) 「ネヴェーラ」
ピニンファリーナ 「バッティスタ」
フェラーリ 「SF90 ストラダレ」

■日本のスーパーカー(自動車業界)事情

旧車ブーム：ハコスカ、2000GT(1970年)
※北米25年ルール：JDM、右ハンドル車&排ガス基準が緩和

スーパーカーはあるのか？

NSX(1990年)、GTR(2007年)、LFA(2010年)

スーパーカー業界の今

価格上昇、限定車ビジネス、売り手市場

スーパーカーファンは

子供たちやファンは見る場がない(大黒ふ頭、辰巳、神宮外苑前)

オーナーは

サーキットの狼世代、ノーマル、改造、走り屋、コレクター等、さまざま

社会は

重税、保険、車検制度

日本は車を取り囲む税金が非常に高く、自動車に対して厳しいです。古い車を文化的な価値として認めてくれず税金が高くなったり、若い人たちの自動車保険料が高く、若い人が車を乗りにくい状況です。日本は自動車産業で大きくなった国ですから、若い人が車から離れてしまうと日本がしぼんできちゃう気がしています。少しでも子供たちに興味を持ってもらいたいというのがスーパーカー協会の活動の理念としております。

■(余談)スーパーカー乗りはお金持ちか!?

ディーラーで新車～安価な中古車まで、希少車は高騰、クラシックカーは美術品的価値

日本は、外国、ヨーロッパに比べると、自動車文化の理解が非常に弱いです。

子供の頃からそういう車に憧れて車に触れる人生を送っていないと、大人になっても、応援したり、いいと思う心が芽生えないかもしれないです。だから少しでも車好きのためにも、あるいは日本の国力、産業が発展するためにも、車という個人が自由に移動するという事も非常に魅力的なものなので、そういう文化をこれからも伸ばしていきたいな、と思っています。EVだろうが、スーパーカーだろうが、あるいはコレクターズカーになっているかもしれませんが、車を愛する心を忘れないで、少しでもそれを原動力にして、日本の産業とか、国力とか、モチベーションが少しでも高くなるように貢献できればいいなと思ってスーパーカー協会の活動をしています。

